

小谷城戦国歴史資料館

小谷城跡は、丘の上にある土塁が残っており、そこからは長浜と琵琶湖を一望できます。頂上までトレッキングする前に、訪問者は丘のふもとにある博物館を見学できます。そこでは、要塞の歴史とそれを支配するために戦った大名を紹介しています。

小谷城は、16 世紀に近江国のこの地域を統治した武士浅井家の本拠地でした。1570 年、浅井家は強力なライバルである織田信長(1534–1582)に戦いで敗れ、小谷城に籠城しました。信長の家臣豊臣秀吉(1537–1598)が要塞を襲撃し、占拠するまで、両者は 3 年間戦いました。

城の博物館には、地図、図表、ジオラマのほか、3 世代にわたって統治した浅井家の記述(日本語)が展示されています。浅井家は敵と複雑な関係にあり、最後の浅井藩主である浅井長政(1545–1573)は宿敵信長の義理の兄弟であり、娘は後に秀吉と結婚しました。

城の要塞は、495 メートルのピークで出会う 2 つの平行な山の尾根に沿ってありました。5 キロメートルの外周をハイキングするには、約 2 時間半かかります。